

トピック まなづるの海

海の環境問題と世界海の日(6月8日)

ここ数年、海の環境問題が社会的な注目を集めています。海に流れ出した膨大な量のゴミの問題や、砕けて小さくなったプラスチックが生態系に取り込まれることが危惧されるマイクロプラスチック問題など、新聞やニュースでも連日取り上げられています。対応の早い企業では、レジ袋やストロー、使い捨て食器などのプラスチック製品の使用を減らす試みを始めています。しかし、実はまだまだ日本の取り組みは遅れているのが現状です。

さて、この海の環境問題が注目されるきっかけとなったのが、2015年9月の国連サミットで採択された「持続可能な世界を実現するための17のゴール：Sustainable Development GOALS」です。これは、2016年から2030年までの国際目標で、SDGs(エスディージーズ)とも略されます。下記のロゴとともに、最近目にする機会が増えたのではないでしょう



SDGsの17項目。貧困や飢饉をなくしたり、すべての人への教育の普及やジェンダーの平等などの社会的な目標の他に、気候変動への対策や陸の豊かさを守ることが掲げられています(上)。



目標14「海の豊かさを守ろう」(左)のロゴ

このSDGs(目標)の一つに「海の豊かさを守ろう」があります。国連加盟国や世界中の企業、そして一般市民にもその対応が求められる中、神奈川県もSDGsの達成に向けて「プラごみゼロ宣言」などの取組をスタートさせました。

海洋ゴミの7割から8割は、実は陸に由来するゴミと言われており、その多くが川を経て海に流れ込んでいます。海辺で暮らす人々だけではなく、すべての人に海の豊かさを守る必要性を意識してもらわなければなりません。

6月8日は国連が定める「世界海の日(World Oceans Day)」です(2009年制定)。この世界海の日「われらが海洋、われらが責任」をテーマに、国際社会が直面している海洋に関する課題について、世界的な認識を高める機会として制定されています。ぜひ、皆さんも海の環境と皆さんができる海の豊かさを守る取組を考える機会にしてください。

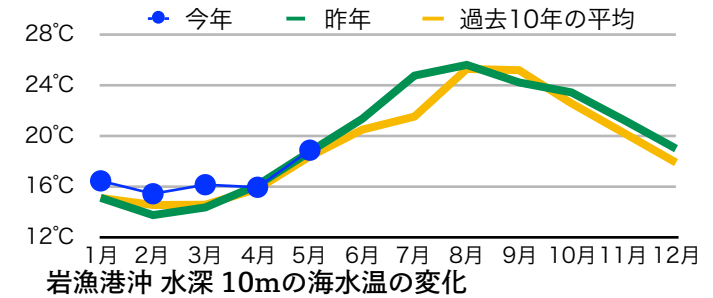
ちなみにですが、日本の海の日はもともと7月20日で、これは明治9年に明治天皇が初めて船で東北を巡幸し、横浜に戻った日にちなんでいます。現在は、いわゆるハッピーマンデーとして、7月の第3月曜日となっています。

真鶴の海況

5月に入り、海もぐっとあたたかく

4月には15.9℃とやや下がった海水温でしたが、5月になると18.8℃とぐっと暖かくなりました。陸上もぽかぽか陽気となるこの季節は、海も例年水温が上昇します。植物プランクトンも増え、海藻もヒジキが多く見られるようになりました。

<データ提供：横浜国立大学>



真鶴の漁獲情報

アジ大漁、トン単位での漁獲

イサキにムツ、ハモにアオリイカなど、水揚げされる魚種もバラエティに富んできた真鶴の魚市場。漁協の職員さんにオススメを尋ねると、「なんとと言ってもアジだね!」との答えが返って来ました。この数年は不漁が続いたアジでしたが、こここのところ久しぶりに数トン単位でのまとまった水揚げがあり、この日も今春2回目の大漁だったそうです。アジは相模湾では通年見られる魚ですが、旬は春から夏です。真鶴では、10cm未満の幼魚も「じんだ」と呼ばれて人気があります。アジ科には多くの種類がありますが、一般的に「アジ」と言えばマアジのことを意味します。マアジの中でも、黒潮に乗って回遊する身の引き締まったアオアジ、浅瀬の岩場でまると太ったキアジなど、地域や生態によって区別されることがあります。味がよいから「アジ」と名付けられたと言われるほど、美味しさが認められているアジを、たたきと塩焼きでおいしくいただきました。<情報提供：真鶴町漁協>



マアジ。体長25cmほどと大型で脂ものっていました。

2019年6月の町立遠藤貝類博物館のイベント

- 2日(日) 海のミュージアム「磯の生物観察会/海の自然実感教室」
三ツ石海岸・町立遠藤貝類博物館【有料】
申し込み：町立遠藤貝類博物館HP、ディスカバーブルー HP
- 15日(土) 貝博サポーターズ「ドイツ化石発掘旅行のお話を聴く会」
講師：飯島俊幸氏 町立遠藤貝類博物館【無料、予約不要】
- 22日(土) 海のミュージアム「磯の生物観察会」
三ツ石海岸・町立遠藤貝類博物館【有料】
申し込み：町立遠藤貝類博物館HP、ディスカバーブルー HP

まなづる 海の月報は、町立遠藤貝類博物館 HPからダウンロードができます。プリントしていただいての掲示・配布歓迎です。